

みちの会だより

平成 18 年 3 月 31 日発行

特集

県外研修旅行

2/26~27



「友だち村」 仲間と支え合う暮らしを目指す

ライフハウス友だち村「夢プロジェクト」

1. ヒューマンサポート事業(生涯安心・住まい手の健康・医療・介護の支援)
2. 友トピア事業(楽しみとやすらぎの場づくり、温泉・自然エネルギーの有効活用)
3. 友だち村商品開発事業(手づくり商品の開発・販売・コミュニティビジネスの支援)
4. ネットワーク事業(広報活動・交流活動・個人事業、施設事業との連携)



<研修に参加して>

「友だち村」は、老後の生き方・暮らし方のモデルのひとつではあるが、現状では、終の棲家にはならない。そこもふまえて、小規模・多機能ケアを視野に近くデイサービスを開始すると聞いた。真価が問われるのは、今後のこと。 杉江 節子

伊豆半島を横断してようやくたどり着いたのが、山を背に曲線を描いて建つ6階建ての白い建物だ。食事をいただいている間に、廊下を歩いていく方たちの、清々しい笑顔に出会えて疲れも癒えていった。地元の雇用促進の一助になっていると聞き、地元との連携を上手に担っていると感じた。

しかし、入居の一時金はなんとかなるとして(1354万円~6597万円)月々食費12万円、その他代行料がかかる。いつまで元気でいられるかと思うと、金銭面からして不安になる。今までの私の生活から考えると、30年近く培った仲間がいる土地から、これから気の合う仲間を作らなければならない遠い地への入居は考えられない。この先どんな状況になるかわからないが、老後の住まい方に「友だち村」の様な形態もあることを学んだ

ことは良かった。

伊藤 あさ子



終の棲家としての理想的な施設「友だち村」を見学し、自立した老後の安心が得られたような気がします。将来に向けて地域住民や「友だち村」住人の意見を最大限取り入れた運営をされていることを伺い、素晴らしいことだと思いました。 齋藤 悦子

打ち付ける雨の中、道に迷ったバスに乗って心は複雑でした。
しかし、ホテルに着いて皆さんで楽しい食事、交流会を持てたことで明るい心、前向きな心になれた事に感謝しています。

翌日、川沿いに咲く桜を見て心がなごみ、顔いっぱい花が咲いて帰路に着け幸せに思います。ありがとうございました。
戸田 幸子



私達は、「ライフハウス友だち村」を見学しました。
のどかな田園風景のなかにモダンな建物で生活の場と言うより宿泊施設と言えるような雰囲気でした。
もちろん、伊豆という場所柄でもあり、天然温泉かけ流しのお風呂付でした。

設立にあたって、4年ちかくの準備期間を設け、オープンから4年目となり入居者は快適な生活を送ってみえるようでした。又、対外的には、地域との関わりはとても重要と考え、これからも積極的な交流が必要と述べてくれました。

私も、老後の生活を考える時、地域との関わりはとても大切な事だと思います。入居するには随分のお金が必要です。前進的な考えを実行された事はとても意義のあることですが、個人的には、お金の有る無しに関わらず老後を快適に過ごす社会になればと願うばかりです。

血縁に頼らない老後のあり方を考え実践してゆく「ライフハウス友だち村」の歩みは、これからの少子高齢化社会を考える時の重要なポイントになる事は間違いないと思います。
酒井 信子



伊豆の旅

持ってきましたと 阿津の桜
友だち村で 元気をもらい
山中へ散歩

「クレマチスの丘」ここは、何とも心地よい響きを持った庭園でした。
あいにくの雨でしたが、私たちは昼食後、ピュッフェ美術館と木村圭吾美術館を巡りました。バリアフリーの美術館で、ホッと



CLEMATIS-no-OKA

する世界でした。

クレマチスの花の咲く頃、晴れた日にもう一度訪れてみたいと思いました。

片山 澄子

地域の活動紹介

東浦町男女共同参画講演会 18.2/4(土)

戸田 幸子 東浦町

東浦町男女共同参画講演会に於いて、谷岡郁子氏（中京女子大学長）を講師に演題「男は教育できるか？」をお話頂きました。

大学生を基準としたお話の中で感じたことは、“能力は女性の方が強いのではないか。歯を食いしばって立ち上がってくる頑張りや、男性をも上回っているのでは...” “今の社会で個性と能力が本当に活かされているのか” 等です。

男女が社会の対等な構成員として、自らの意思で社会活動に参画する機会が確保され、社会的・文化的に責任を担う社会が共同参画社会と、再度心に思いました。 ひがしうら女性の会と教育委員会の主催でした。

* 2006 女と男のつどい 18.3/19(日)

青木 圭子 半田市

半田市女性活動連絡協議会（レディース半田）主催の“女と男のつどい”が開催されました。「自分らしく生きるために」それぞれの生き方、働き方、そして、子育てをテーマに第一部はファミリーフレンドリー企業として表彰された、半田市の「ミツカン」の育児休暇制度についての講演、そして育児休暇を取ったご夫婦と女性のシンポジウム、第二部は映画「ベアテの贈り物」の上映でした。

育児休暇を母親が取った後、父親が交代して取られた話は興味深く、次に言われた言葉は心を強く打ちました。「子供が一歳という期間は今しかない。僕の仕事とか自分のために何かをすることは、時間が過ぎても後からやれる。やり直しがきく。」と。そして「職場は理解があった。困ったことは、男性の便所にオムツ交換場所が無いことだ。」と言われました。

この“つどい”には小さいお子さん連れの（託児あり）若いお母さんの参加が多く、育児休暇制度について関心の高さを感じました。

この2月に、半田市の企業及び職場に、育児や介護に休暇制度が有るか否か、休暇制度の利用人数、休暇中の給料の有無などについて行ったアンケート調査で、回答を得られた41事業所の結果報告が“つどい”の資料に付記されていてその現況を少し知りました。

映画は日本女性の幸を願って、日本国憲法に女性の人権と男女平等を条文に書き加えた方がベアテさん。その方の存在とその条文などを起点に、戦後の女性たちが地道な歩みと、活発な運動を展開してこられたことを知らされた映画で、半田市男女共同参画推進条例が生かされたい内容の“つどい”で嬉しかったです。



* 男女共同参画ネットとこなめ 18.3/9(木)

(シャルウィ☆とこなめ) 公開講座

テーマ「自分を大切にできる子するために 親として伝えられること」

講師 竹内 未希代 氏 長野県社会福祉委員

日本家族計画協会幼児期相談員

子供たちは成長の過程で悩み、反発し、自立してゆきます。

その中で「人権と性」の問題は避けて通れない大切なことです。親として、地域のおじさん、おばさんとして子供たちに何を伝えればよいかを学ぶものです。

幼児期から周囲の愛情と人格を認めてあげることが大切で、それはそれからの思考や行動、又、人生をも大きく左右するというお話でした。

(編集委員 M・Y)

中東女性と市民団体との交流事業に参加して

会長 油田 淑子

3月23日(木)名古屋国際センターでアジア交流基金の招聘で来日したエジプトからの男性、青少年評議会国際会議・国際協力事務局長のムハムンド・シャバーン・マハムードさん、アラブ女性連盟所属ボランティアで会社広報マネージャーのカバダーヤ・ヒバ・サラハさん、アラブ首長国連邦UAE大学国際関係学部教授ナスリン・アブドウル・ラハマンムラードさん、同じUAE大学比較政治学助教授のマリアム・スルターン・アフメド・ムハムンド・ルータさん一行による女性団体の活動についての調査に出席しました。

日本側からはつなぐれっと NAGOYA 協働運営NPO統括責任者の渋谷典子さん、名古屋市地域女性団体連絡協議会計の水野すみ江さんそしてみちの会の私が出席し、活動報告などをしました。

先ずトップはNPOの渋谷さんから、NPOの活動とそれに関った女性たちの成長を具体的事例をもとに報告され、次いで女性会の水野さんが市の社会教育課2名の職員が作成操作した映像を使って多彩な活動を報告。

3番目にみちの会の活動を紹介と、最後は男女共同参画社会基本法、名古屋市の条例とつなぐれっと NAGOYA の事業が報告されました。

それぞれ性格の異なる会の活動発表を終えた後、国際センターの民間大使、名古屋大学のアラブからの留学生を交えて懇親会が開かれました。

宗教や生活習慣が異なっても、ジェンダーという共通の悩みや話題で話が弾みました。

掲示板

県地域実践活動交流協議会より

18.2/23(木)

戸田 幸子 東浦町

県の伊藤室長さんより18年度県組織編成が変わると報告がありました。
「知事部局は7課4室になり社会活動推進課内に青少年、NPO、男女共同参画室の3室が所属することとなりました。」とのことでした。

- * 総会の日程は5月16日(火) 午後1時からです。 場所は未定です。
講演会のテーマは「女性と年金制度改革について」の方向です。
- * 18年度のフォローアップセミナーは、「鹿嶋先生」をお願いして少子化対策にも取り組んでいく予定。
- * 「はがき1枚からの男女平等」を18年度も募集の予定
- * ウィルあいちホールで10月22日(日) トークセッション、映画上映があります。ご参加下さいませ。



平成17年度県男女共同参画社会支援セミナー

フォローアップ講座

18.1/28(土)

- * テーマ「女性たちの再チャレンジ」
講師 鹿嶋 敬 氏 実践女子大学人間社会学部教授
内閣府チャレンジ支援推進事業企画委員会座長

----当日資料より----

- ・女性のチャレンジはなぜ必要なのか
- ・再就職環境はどうなっているか
- ・再チャレンジを整備するメリット
- ・ポジティブ・アクションの必要性
- ・あらためて問う、男女共同参画社会とは何か
- * 「本音トーク」 ～身近なことから男女共同参画！～
 - ・基調トーク 鹿嶋 敬 氏
 - ・本音トーク コディネーター：鹿嶋 敬 氏
パネリスト : 牧野安宏 (エコグルメの会)
岡本一美 (NPO 地域福祉サポートちた)
小林浩子 (子育てネットワークあいち)
鈴木貴久 (愛知コースソーシャルサポーター)

選挙管理委員会より報告

平成18年2月13日の会長選挙の結果
平成18年度地域開発みちの会会長は
油田 淑子さんに決まりました。

平成18年度地区幹事

名古屋市：	阪野 信子	鈴木 多恵子	林 八千代
半田市：	板倉 恵美	常滑市：	山中 和子
東海市：	稗田 とし恵	大府市：	酒井 信子
知多市：	山本 伸子	阿久比町：	吉住 まり子
東浦町：	久米 英子	南知多町：	鈴木 美智子
美浜町：	斎藤 悦子	武豊町：	中川 はる

街角散策

揚輝荘（覚王山）

松坂屋初代社長・伊藤次郎左衛門民氏の別邸で、天を突く巨木が林立し鬱蒼とした森の中にある。

山荘風建築の「聴松閣」と尾張徳川家の和室と鈴木禎次氏設計の洋室を組み合わせた「伴華桜」や修学院難宮風の池泉回遊式庭園で出来ています。

一度、出かけてみたいところです。

（編集委員：M・Y）



聴松閣（ちょうしょうかく）

発行責任者：油田 淑子

編集委員：酒井 信子 吉住まり子

問い合わせ先：油田 淑子